

平成22年度 財団法人丹後地域地場産業振興センター事業報告

総括的概要

平成22年度は、リーマンショック以来の不況感が一息つき経済活力が戻りつつありましたが、3月11日の東日本大震災の発生により経済状況が一変しました。

丹後地域においては、ちりめん産業の持ち直しなど明るい材料も見られましたが、観光入り込みの減少傾向に歯止めがかからず全体的には厳しい1年であったと言わざるを得ません。

このような状況の中、当センターでは販路開拓に重点を置き、東京インターナショナルギフトショーへの出展、食品類の商談先として新たにFOODEX JAPANへ出展するなど積極的な販路拡大を展開してきました。

また、総務省の交付金事業の採択を受け、ICT人材育成・活用による丹後産品集積活性化事業に取り組み、農産物を含む地域産品を集積する体制を整備し、ICTを活用し人材を育成するとともに、全国に地場産品を発信する基盤を整備しました。

以下、本年度の事業内容をご報告いたします。

1 新製品、新技術の開発研究

(1) 織物開発室

来館者へ織物実演をとおして丹後ちりめんの産地としての啓蒙・PRを図りました。

(2) 染色開発室

丹後の染色技術のオリジナリティ、アイデンティティの確立を目指し「網野染色研究会 茜」の活動拠点として施設を開放するとともに、同会の協力を得て染色人口の底辺拡大を図るための各種染色教室を開催し、技術の普及、更にはこれら技術を活用した新商品の開発に努めるとともに、来館者への染色体験を実施することで、地域産業である「ちりめん」と観光客との接触の機会を提供し、産地イメージの高揚に努めました。

● 染色作品展開催（アミティ丹後秋の感謝祭と同時開催）

- ◇期 間 平成22年10月30日～11月7日
- ◇場 所 当センター展示ギャラリー及び講座室
- ◇主 催 網野染色研究会 茜

2 需要の拡大

(1) 地場産品の常設展示即売事業

当地方の風土と伝統技術の中で育まれた丹後ちりめんをはじめとした豊富な地場産品を展示・販売し、丹後を訪れる観光客をはじめ地域内外に幅広く宣伝啓発し、販路開拓と需要の拡大に努めました。

特に、丹後ブランド商品販売促進（T a n g o G o o d G o o d s 認定等）事業と連携した地場産品の所在・発掘調査と消費者ニーズに基づく商品の見直しに取り組んだ結果、3月末現在で、委託販売業者は2市2町で221業者（前年比1業者増）、取扱品目3, 114品目（前年比276品目増）となりました。

また、製造者のVMD及び商品開発力などスキルアップを目指しアミティ丹後出展者会による協議を随時開催しました。

参考資料1

(2) 丹後ブランド商品販売促進事業

丹後地域の優れた地場産品を発掘・開拓し、丹後を訪れる観光客等に優れた地場産品を紹介・販売できるシステムを構築することを目的として、T a n g o G o o d G o o d s 認定事業に引き続き取り組みました。

本年度も新規募集に加え、平成19年度認定品の認定期間満了による再審査をあわせて実施し、丹後地域内の販売業者（小売店）、卸業者及び観光関連業者を対象としたT a n g o G o o d G o o d s 見本市を開催するとともに認定品カタログ等を作成配布し、商談の機会を設定しました。

ア 平成22年度T a n g o G o o d G o o d s 認定 (地域資源活用新事業展開支援事業費補助金事業)

◇認定状況

平成22年度 認定者数42社 認定点数90点

通算（平成20年度～22年度）認定者数99社 認定点数272点

◇優秀産品表彰

優秀産品表彰制度は、認定品の中で特に優秀と認められるものを選定・表彰する制度で、本年度は4点を表彰しました。

優秀産品はT a n g o G o o d G o o d s 見本市で特別展示するとともに、K T R天橋立駅構内及び当センター展示即売室で展示し、T a n g o G o o d G o o d s 事業の旗頭としてP R成果を上げています。

イ 第12回Tango Good Goods見本市の開催
(地場産業等振興対策費補助事業)

- ◇開催期間 平成22年10月16日(土)・17日(日)
- ◇開催場所 宮津市民体育館
- ◇主催 財団法人丹後地域地場産業振興センター
京都丹後ブランド産品会
- ◇後援 京都府・京丹後市・宮津市・与謝野町・伊根町
丹後地方商工団体連絡協議会
丹後広域観光キャンペーン協議会
- ◇出展業者数 54社(前年比10.0%減)
- ◇商談件数 55件(前年比5.8%増)
- ◇来場者数 4,900人(前年比増減なし)

ウ Tango Good Goods認定品カタログ及び販促グッズの配布

- ◇見本市等で商談資料として活用する「2010認定商品カタログ」を作成し、卸・小売店、観光関連業者等へ配布しました。
- ◇Tango Good Goods販売促進及び宣伝・啓発ツールとしてミニのぼり、のれん、のぼり、販促ポスターを卸・小売店、観光関連業者、関係機関・団体・集客施設等へ配布しました。

(3) 商談会出展事業

ア 第71回東京インターナショナル・ギフトショー春2010
(地域資源活用新事業展開支援事業費補助金事業)

丹後産品の地域外での流通拡大・商品取引を目指し、日本最大の本
同トレードショーに出展しました。

- 開催期間 平成23年2月1日(火)～4日(金)
- 開催場所 東京国際展示場(東京都江東区)
- 入場者数 202,348人
- 出展社数 6社
- 引合件数 479件
- 商談件数 120件

イ FOOD EX JAPAN 2011

(地域資源活用新事業展開支援事業費補助金事業)

丹後産品(食品)の地域外での流通拡大・商品取引を目指し、日本
最大の本同トレードショーに出展しました。

- 開催期間 平成23年3月1日(火)～4日(金)

- 開催場所 幕張メッセ（千葉県千葉市）
- 入場者数 74,936人
- 出展社数 1社
- 引合件数 74件
- 商談件数 42件

（４）京都丹後ブランド製品会の育成・指導

T a n g o G o o d G o o d s 認定事業者のうち地域外への販路開拓、需要の拡大を強く希望する有志で構成する「京都丹後ブランド製品会」の事務局として各種事業を実施しました。

ア 通信販売カタログの作成・配布

昨年度に引き続き、中元・歳暮及び通年カタログを作成、配布し、東京・大阪の各丹後人会及び当センター顧客等へ送付するとともに、丹後2市2町へ新聞折り込みしたほか各機関・団体・催事等に積極的に配布するとともに、各種物産展、館内配布を実施し、リピートオーダーの確保に努めました。

参考資料 2

イ ECサイトの運営

昨年度に引き続き、上記通信販売カタログと連動したECサイトを改良、運営しました

ECサイトURL <http://tango.jibasan-shop.jp/>

参考資料 3

ウ 情報交流会の開催

会員相互の交流を図るとともに異業種、同業種間の情報交流及び会員間ネットワークを強化するため、情報交流会を実施しました。

- 開催日 平成22年10月16日（土）見本市終了後
- 開催場所 料亭ふみや（宮津市）
- 参加者 T a n g o G o o d G o o d s 認定事業者他
37名

エ 丹後のええもん うまいもん展の開催

T a n g o G o o d G o o d s 認定商品を中心に、丹後地域で産する優良な地場産品を地域外へ広くPRするとともに、消費者と生産者との直接の出会いを設けることにより、新たな需要を喚起し販路の拡大、魅力ある商品開発の道を拓くことを目的として各地の大消費地で即売会を開催しました。

- 主な開催地
 - ・兵庫県尼崎市 尼崎つかしん
 - ・愛知県名古屋市 金山総合駅
 - ・京都府京都市 A-COOP 京都洛西大枝店
 - ・大阪府吹田市 ディオス北千里
- 開催数及び出展者数
 - ・開催数 延べ21回
 - ・出展者数 延べ144社

参考資料 4

(5) 特産品ショップ「ホッと丹後」の運営（京丹後ブランドチャレンジショップ事業補助金事業）

丹後地域の特産品の販売や観光情報等の提供を通じて、「丹後」の名前や魅力を発信し誘客を図るとともに、商品の販路拡大を目的として京都市内に開設したホッと丹後を引き続き運営しました。

常設展示のほか、ばら寿司など製造者による直接販売や旬の食材フェア（牡蠣、サザエの壺焼き等）などを随時開催するとともに、情報発信イベントを開催し、多くの方々に丹後をアピールしました。

ア ホッと丹後起点サテライト出展事業

ホッと丹後及び地域製品のPRを目的に、ホッと丹後が情報収集した催事を京丹後ブランド産品会会員に提供し、23催事に出席しました。

イ 製造業者直販フェア

ホッと丹後店頭において、製造業者が自身の商品を直接販売し、消費者の声を聞く直販フェアを毎月実施し、16業者が延べ69回の出展を行いました。

参考資料 5

ウ ホッと丹後友の会「丹後の梨狩り体験・ジオパーク見学・丹後産品のお買い物ツアー」の開催

丹後ファンの獲得を目的に、丹後の魅力に触れてもらう丹後ツアーをホッと丹後友の会会員を対象に実施しました。

- 実施日 平成22年10月16日（土）
- 参加者 97名

参考資料 6

エ 丹後産コシヒカリPR事業

京丹後市・京丹後市農業経営者会議及び丹後地域産業活性化

推進会議との連携により、丹後産コシヒカリ（特別栽培米）を店舗内で精米し、お試し販売する企画を実施しました。

丹後産コシヒカリの「美味しさ」を知ってもらい、丹後地域の魅力をPRし丹後ファンの獲得、目的に期間限定販売を行いました。

●出展者 12生産者

●期 間 平成23年2月1日～3月31日

参考資料7

(6) ふるさと雇用再生事業地域特産品販路開拓委託事業

京丹後市の委託を受け、都市部（尼崎市、名古屋市、京都市、東京都等）の一般消費者を対象に地場製品のサンプル配布、アンケート調査を実施し、製造業者へ商品開発、改良の情報をフィードバックしました。

(7) 全国地場産業振興センターとの交流促進

全国のセンターが主催する地場産展に積極的に協力したほか、全国協議会のホームページ（全国ショッピングモール）及び情報交換システムの構築、近畿じばさんショッピングモールの改良について中小企業総合研究機構の支援の元、職員研修を開催しました。

ア 近畿じばさんショッピングモールの運営

平成21年度開設の近畿地場産センターショッピングモールを引き続き運営しました。

●URL 近畿じばさんショッピングモール

<http://www.jibasan-shop.jp/>

イ ショッピングモール構築研修会

●テーマ ITを活用した地場製品の販路拡大について

●講師 グローバルビジネス株式会社代表 内田 賢 氏

第1回研修会

・日 時 平成22年7月2日 午後2時から5時

・場 所 西播地域地場産業振興センター

・職員派遣 1名

第2回研修会

・日 時 平成22年8月31日 午後2時から5時

・場 所 西播地域地場産業振興センター

・職員派遣 2名

第3回研修会

- ・日 時 平成22年10月28日 午後2時から5時
- ・場 所 西播地域地場産業振興センター
- ・職員派遣 1名

第4回研修会

- ・日 時 平成22年12月16日 午後2時から5時
- ・場 所 岡山県大阪事務所
- ・職員派遣 2名

ウ 全国地場産業振興センター協議会

全国地場産業振興センター協議会 総会

- 日 時 平成22年7月8日・9日
- 場 所 高島地域地場産業振興センター（滋賀県）
- 内 容 平成22年度事業について

エ 各地場産業振興センター物産展への出展

各地場産業振興センターからの出展要請に応え、販路開拓及び需要の拡大、地域情報の発信、消費者ニーズの動向把握を目的とし、各地場産業振興センター（本年度4センター）が開催する全国物産展へ出展及び京都丹後ブランド産品会員へ出展情報を提供しました。

参考資料 8

（8）各種展示会・イベントへの出展

各種機関・団体からの出展要請に応え、京都丹後ブランド産品会員へ出展情報を提供するとともに、当センターも積極的に出展参加しました。

参考資料 9

（9）他団体との連携

丹後広域観光キャンペーン協議会、京丹後市観光協会、京丹後市ちりめん祭会等の各種機関・団体との連携により丹後地域のPR事業を実施しました。

ア 京丹後市ケーブルテレビとの連携

今年度から当センターの一角に設置された京丹後市ケーブルテレビスタジオの機能を活用し、センターの地場産品、体験機能などを情報として発信しています。

また、今年度は歴史街道の番組として「わたしのまちの歴史と文化」をテーマにアミティ丹後から丹後ちりめんをはじめとする丹後の織物文化を発信する情報番組を制作しました。

(10) ICT人材育成・活用による丹後産品集積活性化事業

総務省の平成22年度実施情報通信技術地域人材育成・活用事業交付金を受け、丹後地域の農産品・水産品・加工品・伝統産品等を集積し、地域産品販売の拡大及び生産者の収益力向上を図ること目的にICT人材の育成と活用によって「丹後産品集荷システム」、「在宅勤務型販売管理システム」、「丹後動画アプリケーションシステム」を構築するとともに、ICTを利活用した丹後産品の認知度向上と販路の拡大を実施しました。

また、丹後動画アプリケーションを京都工芸繊維大学の学生に指導するとともに、女子美術大学との連携による丹後ちりめんの活性化、商品開発について双方向で協議するシステムの導入、丹後地域及び地場産品をPRするデジタルサイネージシステムを丹後地域16カ所に設置し、動画コンテンツを放映しています。

事業の実施については、農商工者による有限責任事業組合(LLP)を設立し、平成23年度において本格稼働を目指します。

参考資料10

3 人材の育成

(1) 染色基礎講座

年間を通し、京丹後市職業訓練校染色科へ染色開発室を開放し、技術者の養成を図りました。

- 染色基礎Ⅰ 全20回 受講者7名
- 染色基礎Ⅱ 全15回 受講者6名
- 講師 石堂典子氏

(2) 商談能力向上セミナー

商談会出展事業の実施に向け、効率的な商談を可能とするため、財団法人電源地域振興センターの助成を受けセミナーを開催しました。

- 開催日時 平成23年1月6日 午後1時30分
- 開催場所 当センター研修室
- 講師 フーズ・コンサルタント 代表 高梨清氏
- 受講者数 7社

4 情報の収集提供

(1) アミティ情報の発信

展示即売室における顧客、商品販売情報の収集・分析に取り組み、販売実績データとともに、来店者の声を収集・分析し、アミティ情

報として毎月出展者に発信しました。

(2) ホームページによる情報発信

T a n g o G o o d G o o d s の商取引支援及び一般消費者へのPRを目的に認定商品をデータベース化した「T a n g o G o o d G o o d s 紹介サイト」と消費者に販売する「ショッピングサイト」、センターのPR及び情報発信機能としての「センターサイト」の3機能を統合したホームページを運営し、情報発信に努めました。

(URL <http://www.tango.jibasan.jp/>)

5 イベント

(1) 誘客イベントの開催

人の集う施設としての仕掛けづくり及び観光客誘致事業としてゴールデンウィーク、盆期、クリスマス、正月などの人が動く時期に合わせ、展示ギャラリーを活用した展示会の開催や地場産品製造業者による日替わり出張販売、押花はがきづくり・かんたんこものづくり・切り絵などの体験講座を開催しました。

(2) 展示ギャラリー活用事業

センターの知名度アップと「人の集う施設」としての仕掛けづくり、ギャラリーの活用促進、ものづくり意欲の高揚、啓蒙を図ることを目的に、企画展を開催しました。

ア 押し花アート展

- 期 間 5月1日(土)～9日(日)
- 主 催 押し花サークル「和」
- 展示品 押し花作品
- 来場者数 571名

イ T展

- 期 間 7月14日(水)～29日(木)
- 主 催 丹後若手染色グループDYE冒険
- 展示品 オリジナルTシャツ展
- 来場者数 940名

ウ 「丹後の夏いろ」展

- 期 間 7月31日(土)～8月19日(木)
- 主 催 アミティ丹後出展者会

●展示品 夏をテーマとした地場産品

●来場者数 2, 325名

エ 「山陰海岸ジオパーク」展

●期 間 9月6日(月)～10月27日(水)

●主 催 京丹後市

●展示品 ジオパーク認定を記念。ジオにまつわる展示品

●来場者数 3, 480名

オ 「平成22年度丹後織物工業組合求評会入賞作品」展

●期 間 12月2日(木)～26日(日)

●主 催 丹後織物工業組合

●展示品 平成22年度求評会入賞作品

●来場者数 2, 030名

カ 「2011年丹後ちりめんカレンダー着物」展

●期 間 12月28日(火)～1月31日(月)

●主 催 丹後織物工業組合

●展示品 2011年丹後ちりめんカレンダー着物

●来場者数 1, 590名

6 管理

(1) 施設管理

開館25年を経過し、老朽化が著しく進んできており京丹後市からの補助を得て大規模修繕工事を実施しました。

また、このほかにも細部にわたり不具合箇所が発生しており、修繕、改修を行っています。

主な補修工事

●絨毯張替工事

●下水道接続工事

等を実施。

(2) 会場提供

当センター施設利用は、地域の厳しい経営環境等が懸念されましたが使用回数は前年を上回り、使用料収入については前年対比0.1%の増となりました。

施設は老朽化してきていますが、来館者が安全に、気持ちよく使用できるよう今後も設備の点検・修理・充実・館内外の清掃・

整理に努めました。

参考資料 1 1

(3) 経営管理

厳しい経営環境中、さらなる効率的運営と経費の節減に努めるとともに、積極的に地域内旅館業者との連携を図るため、夏期、冬期の2回、センターパンフレット等の配布及び誘客の依頼を実施しました。

7 喫茶・食堂の運営

来館者、会場使用者へのサービスと地域住民のふれあい、憩いの場として、また業者の情報交換の場としての機能を生かすため、アミティシルクに施設を貸与してきました。

年間利用者は、20,283人で対前年度比1.8ポイントの減となりました。

8 その他

(1) たんご朝市

海、里、山の幸に恵まれる丹後の「旬」の農林水産物や手作り品を持ち寄り、観光客や地域の方々に豊かな資源や食材を楽しんでもらえる観光朝市として、「たんご朝市」を毎週日曜日開催しました。

また朝市開設後10年を記念し、利用者への感謝の意を込め5月2日(日)・10月31日(日)の2回、春・秋の感謝イベントを開催し、多くの来場者に楽しんでいただきました。

(2) アミティ丹後感謝祭

たんご朝市感謝祭として毎年2回の開催のうち秋の感謝祭をたんご朝市会、アミティ丹後出展者会、網野染色研究会 茜、浅茂川機業青年会、網野高校吹奏楽部との合同事業として取り組み、多くの方々にご来場いただきました。

- たんご朝市感謝祭 10月31日開催
- アミティ丹後出展者会出展 10月31日開催
- 網野染色研究会 茜作品展 10月30日～11月7日展示
- 浅茂川機業青年会 ジャンジャン呉美の市 10月31日開催
- 網野高校吹奏楽部 10月31日演奏

(3) 輝け丹後未来をてらす光の庭

昨年まで下岡浅茂川バイパス道で点灯していたイルミネーションを、より地域住民の目に触れ、賑わいを演出するため当センターに場所を移し網野高校美術部のデザイン協力を得て点灯しました。

●点灯期間 平成22年12月11日から3月11日(東日本大震災発生により消灯)

●主催 光り輝く京丹後街づくり実行委員会

●点灯式の実施

日時 12月11日(土) 午後6時から8時30分

参考資料12

(4) 会議及び監査等

ア 財団監査会 平成22年5月17日
平成21年度事業報告、収支決算の監査

イ 財団理事会

●第68回理事会 平成22年5月28日
平成21年度事業報告、収支決算ほか

●第69回理事会 平成23年1月13日
丹後地域産品活性化協議会の設置について

●第70回理事会 平成23年3月29日
平成23年度事業計画、収支予算ほか

ウ 財団運営委員会

●平成22年5月20日 平成21年度事業報告、収支決算ほか

●平成23年1月13日 ICT人材育成・活用による丹後産品集積活性化事業について

●平成23年3月23日 平成23年度事業計画、収支予算ほか

エ 新公益法人制度改革対策委員会

●第2回委員会 平成22年4月27日
最初の評議員選任方法について
評議員選任委員会の委員について

●第3回委員会 平成22年11月19日
評議員の選出母体について

オ 評議員選定委員会

●第1回委員会 平成22年9月24日
公益法人制度改革の内容について、ガバナンスについて
評議員の人選について

●第2回委員会 平成22年12月24日
評議員の人選について

カ 近畿経済産業局中間検査 平成23年3月28日
平成22年度地域資源活用新事業展開支援事業費補助金事業
監査